

4 PDCAサイクルの確立

全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査などの分析結果を基に教育活動を見直し、学力向上に向けた取組を進めていくことが求められます。

学力向上のためのPDCAサイクル（計画→実行→評価→改善）を確立し、学校体制で取組を推進していくことが成果につながります。

<実践例>

校内研修などで全教職員が、全国学力・学習状況調査等の問題を実際に解いてみるのが大切です。



全国学力・学習状況調査等の結果に基づく指導改善PDCA

Plan (計画)

- 全国学力・学習状況調査等の分析
- 具体的で検証可能な目標の設定
- 計画の作成

【目標の設定(例)】

- ・「理由をはっきりさせて、考えを記述できる力の育成」という目標を設定

Do (実行)

- 計画に沿った学習活動の展開
- 研究授業の実施

【授業の実践(例)】

- ・目標に迫るため「ノートの活用」「学習形態の工夫」に研究の視点を設定して授業実践(各教科)

Action (改善)

- 目標の達成状況に基づく新たな目標の設定
- 評価結果に基づく改善策の検討

【実践の改善(例)】

- ・目標に迫るための研究の視点を、新たに「個に応じた支援の工夫」に設定して授業を改善(各教科)

Check (評価)

- 目標に対する実践の効果を客観的に把握(評価問題等による)
- 目標に対する自己評価の実施

【実践の評価(例)】

- ・校内授業研究会での検証
- ・全国学力・学習状況調査問題等の活用

連携

【教育委員会の取組例】

- 全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査結果等の分析資料の作成及び提供
- 要請訪問への対応
- 研修会の実施
- 学力向上のための資料作成及び提供

大切なこと

- 全国学力・学習状況調査等の結果から、自校の成果及び課題を把握する。
- 課題解決のための方策を明確にし、全校体制で改善に取り組む。

(参考文献)

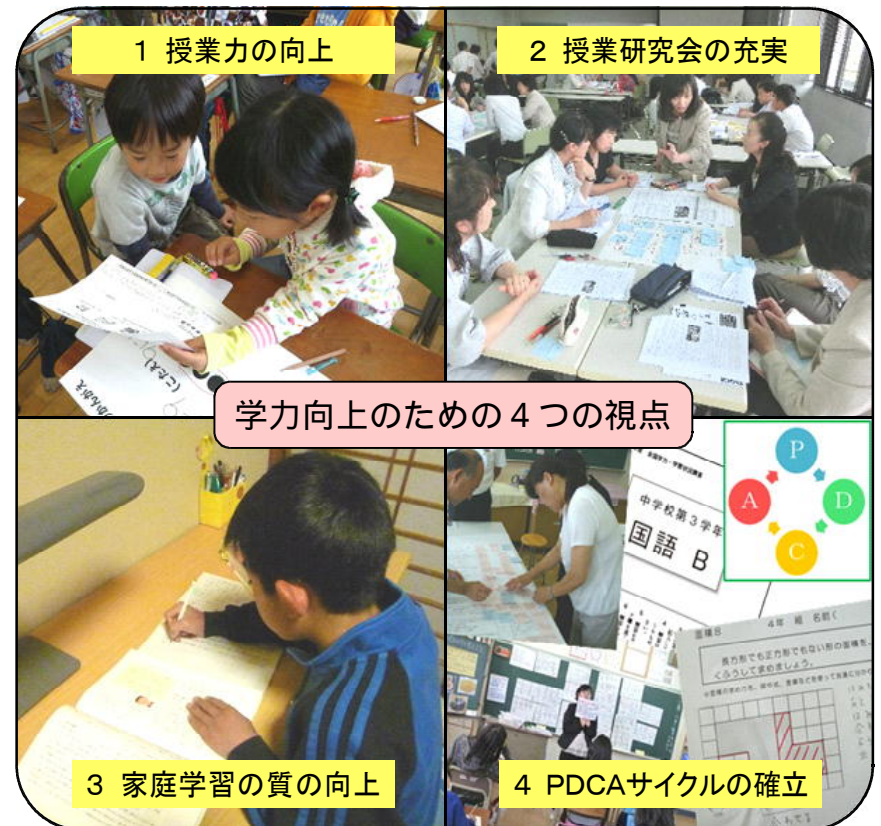
- 「小学校学習指導要領」 文部科学省 平成20年
- 「中学校学習指導要領」 文部科学省 平成20年
- 「小学校版言語活動の充実に関する指導事例集」 文部科学省 平成22年
- 「中学校版言語活動の充実に関する指導事例集」 文部科学省 平成23年
- 「学校改善支援プラン」 秋田県検証改善委員会 平成22年
- 「授業力を高める校内研修の進め方」 鹿児島県総合教育センター

芳賀の子ども学力向上プラン

～思考力・判断力・表現力等の育成を重点に～

本冊子のねらい

『芳賀の子ども学力向上プラン』は、全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査等の結果を踏まえ、各学校における学力向上のための取組を支援するために作成しました。特に思考力・判断力・表現力等の育成に重点を置き、4つの視点からの取組を提案します。



1 授業力の向上

2 授業研究会の充実

学力向上のための4つの視点

3 家庭学習の質の向上

4 PDCAサイクルの確立

栃木県教育委員会事務局芳賀教育事務所
芳賀地区広域行政事務組合教育委員会

芳賀の子ども学力向上プラン全体構想

芳賀地区の子どもの現状と課題

教科に関する調査結果から (p3)

児童・生徒質問紙、
学校質問紙から (p3)

平成25年度全国学力・学習状況調査結果より

学力向上のための4つの視点

1 授業力の向上 (p4,5)

- 知的活動(論理や思考)に関する言語活動の充実
- ねらいの達成状況に対する適切な見取りと指導

2 授業研究会の充実 (p6,7)

- ワークショップ型授業研究会
 - ・ 運営方法等の工夫
 - ・ 日々の授業へのフィードバック
 - ・ 小・中連携、教科を越えた研究

芳賀地区の子どもの学力向上

3 家庭学習の質の向上 (p7)

- 家庭との連携を密に図った取組
- 家庭学習の具体的な取組み方の指導
- 「家庭学習ノート」の質を高める取組

4 PDCAサイクルの確立 (p8)

- 全国学力・学習状況調査等の結果に基づく指導改善
 - P: 目標の設定
 - D: 授業の実践
 - C: 実践の評価
 - A: 実践の改善
- 教育委員会との連携

全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査等の活用

教師の仕事は、児童生徒の学力を向上させることです。

そのためには、全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査等を十分に活用し、上の4つの視点を基に、学校全体で取り組んでいきましょう。



研究の成果を日々の実践に生かすために...



授業研究会の最後に、必ず自己の振り返りをしましょう。

「いつ、何を、どのように実践する」のように、具体的な改善策を記入することが大切です。

授業や授業研究会を通して学んだことや気付いたことなどを記入します。

全体での今後の共通実践事項や、自分の改善策等を具体的に記入します。

(例)「振り返りカード」の活用

振り返りカード 氏名() 年月日

【授業や授業研究会を通して学んだこと】

【具体的な実践事項】

大切なこと

- 話し合う内容を焦点化し、改善策を考える時間を確保する。
- 共有した課題を意識して、日々の授業を実践する。

3 家庭学習の質の向上

家庭学習の仕方や計画、確認する場を大切にするとともに、家庭の協力を得ながら、家庭学習の質の向上を図ることが重要です。

家庭との連携を密に図った取組

例：「家庭への協力依頼」の通知

家庭学習への協力のお願しい(例) 小学校

学校では学習内容が定まるように取り組んでいますが、家庭と連携することで、より確かに定着すると考えます。...

1 家庭学習の進め方

担任から出た「宿題」を最初にさせてください。時間が余ったら「家庭学習の手引き“児童用”」の中から選んでさせてください。家庭学習への取組を確認し、振り返りカードにサインをして、ほめたり励ましたりしてください。

「家庭学習ノート」の質を高める取組

例：「家庭学習コンクール」の実施

「家庭学習ノートコンクール」の実施 → 互いのよさから、学習の仕方を学ぶ

情報交換

子どもの意欲向上 ← 担任のコメントと他の先生からの称賛

「学校改善支援プラン」秋田県検証改善委員会より

家庭学習の具体的な取組み方の指導

例：「家庭学習の手引き」の活用

【「家庭学習の手引き」の内容例】

- 家庭学習の意義と心得
- 学習時間の目安
- 学習の進め方(まず宿題 → 次に自主学習)
- 休業日や教科別での学習内容例



家庭学習の手引き(例) 中学校

【数学】

基本学習... 計算練習・文章問題を解いてみましょう。

教科書の練習問題
授業で配布したワークシートの活用
(新単元ごと、一週間ごと、毎時間ごと)
問題集の活用(活用問題へのチャレンジ)

自主学習... 授業で学習した教科書の問題を解いてみましょう。

図・グラフ・表をかいておくとよい。
ポイント等を自分なりに工夫して整理してみる。
(マーカー・枠・吹き出しの活用)

大切なこと

- 「家庭学習の手引き」などにより、具体的に家庭学習の取組み方を指導する。
- 保護者会等で家庭学習への協力依頼をするなど、家庭との連携を図る。

2 授業研究会の充実

芳賀地区において、授業研究会をワークショップ型で協議する学校が多く見られるようになりました。授業力向上や組織力向上を目指し、授業研究会の一層の充実を図ることが重要です。

授業研究会の充実のための様々な工夫例

日程調整、時間の確保、運営の効率化

- ・「協議の視点」の明確化
- ・自習体制の確立(例：見守りボランティア)
- ・ポイントの部分だけの授業参観
- ・1週間の授業公開週間の設定



目的や内容、方法等の共通理解

- ・話し合いで使った模造紙の職員室での掲示
- ・ねらいや方法の共通理解
- ・ワークシートを工夫しての話し合い
- ・子どもの姿を基にした授業の振り返り
- ・グループの少人数化
- ・協議メンバーの変更と進行役の輪番制

研究授業のもち方

- ・一人一研究授業
- ・ブロックで授業を共同提案
- ・外部講師の活用
(例：スクールエキスパート)
- ・特別支援学級の授業参観
- ・共通の視点を設定した他教科の授業参観
- ・学区内の小中学校相互の授業参観



小・中連携

授業研究会では、小・中学校の教職員が意見を交換するようになっています。共通のテーマを設定し、研究を深めることで授業の改善に役立っています。



教科を越えた共同研究

授業研究会では、共通の視点を踏まえて、違う教科の立場から意見を述べるようにしています。多様な気づき生まれ、互いの授業に生かされます。

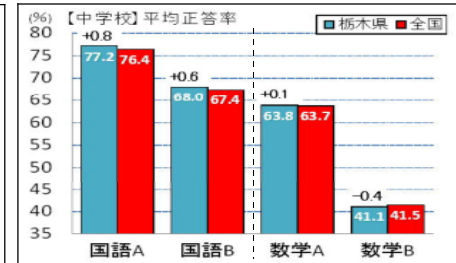
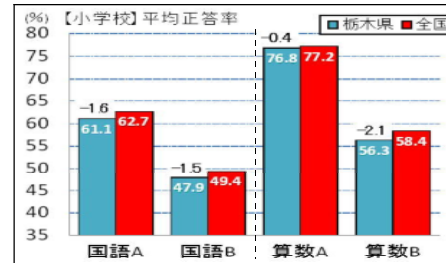


芳賀地区の子どもの現状と課題

平成25年度全国学力・学習状況調査結果より

教科に関する調査結果から

※グラフ上の数値は、全国比

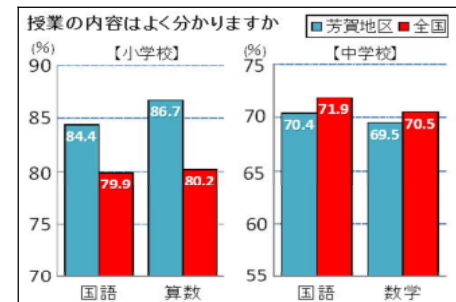
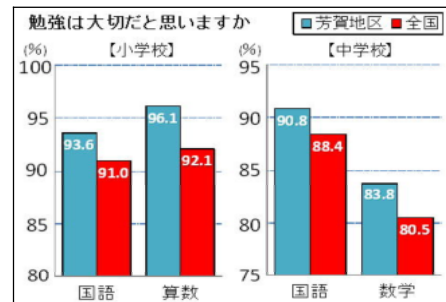


全国や本県の結果と同様に、芳賀地区では、A問題に比べてB問題に課題があります。

児童・生徒質問紙、学校質問紙から

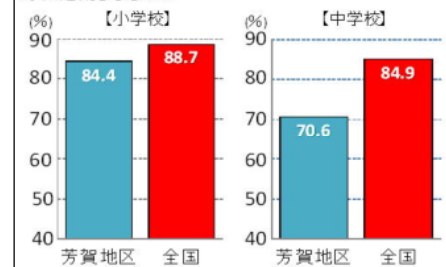
「児童・生徒質問紙」

※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合

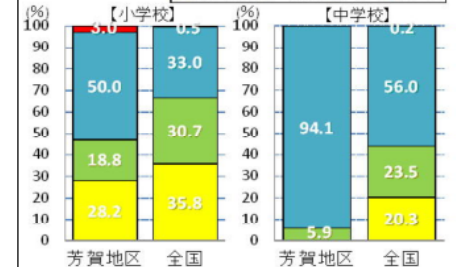


「学校質問紙」

調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか ※「よく行った」「行った」の割合



授業研究を伴う校内研修を前年度何回実施しましたか



全国と比較すると、芳賀地区では、勉強の大切さなど学習に対する意識では、よい傾向が見られます。一方、調査結果の活用や校内研修会の実施回数では、課題が見られます。

大切なこと

○調査結果等から、求められている力や指導すべき内容を再確認して、授業を改善していく。

学力向上のための4つの視点

1 授業力の向上・・・思考力・判断力・表現力等の育成に重点を置いた授業の改善

ポイント1 知的活動(論理や思考)に関する言語活動の充実

1 教科のねらいを達成させるために言語活動を取り入れましょう。

例：音楽（小学校第2学年）
 1 題材名 いろいろな音の色～金管楽器の音色～
 2 ねらい 感じ取ったことを絵や言葉で表して友達と伝え合うことにより、演奏の楽しさに気づき、味わって聴くことができる。

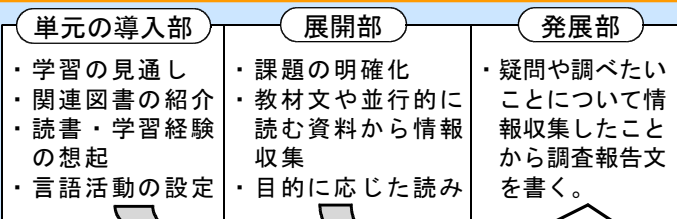


音色や音高から感じ取ったことやその理由を音楽に基づいて、絵や言葉で表現させる。

大切なこと
 教科のねらいを達成する手段として言語活動を行う。
 ※ただし、国語、外国語については言語活動が目的となる。

2 単元全体を見通して、適切に言語活動を位置付けましょう。

例：国語（小学校第3学年）
 1 単元名 「野さいブック」でみんなに知らせよう！野さいのよさ
 2 ねらい 目的に応じて読んだり調べたりしたことについて、理由や事例を挙げて報告文を書くことができる。

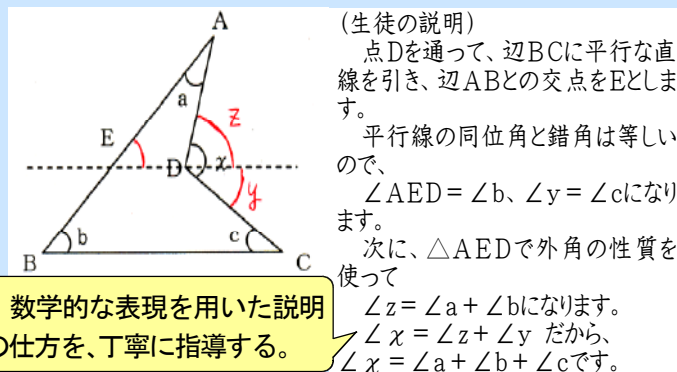


導入部や展開部に設定した言語活動を発展部に活用し、自分の表現に生かせるようにする。

大切なこと
 単元ごとに身に付けたい力を明確にして指導する。

3 根拠を明確にして説明させましょう。

例：数学（中学校第2学年）
 1 題材名 多角形の角の性質
 2 ねらい 平行線の性質や三角形の角についての性質を基にして、多角形の角についての性質を考えることができる。

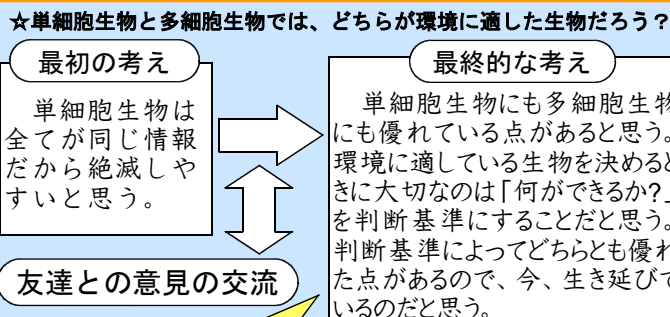


数学的な表現を用いた説明の仕方を、丁寧に指導する。

大切なこと
 根拠の示し方を発達の段階に応じて指導する。

4 思考を広げたり深めたりする話し合いを位置付けましょう。

例：理科（中学校第3学年）
 1 題材名 生物のふえ方と遺伝
 2 ねらい 学習課題に対する考えを既習の知識を活用して、科学的な視点で説明することができる。



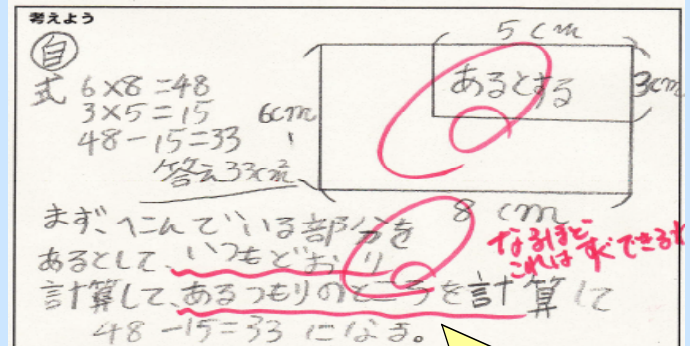
他との共通点や相違点を比較することにより、自分の考えを確立させる。

大切なこと
 話し合い後に再度、個で考える時間を位置付けて変容を確認する。

ポイント2 ねらいの達成状況に対する適切な見取りと指導

1 全員の定着度を、適宜確認しましょう。

例：算数（小学校第4学年）
 1 題材名 長方形を組み合わせた図形の面積
 2 ねらい 長方形の面積の求め方などの既習事項を基に、長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を考えることができる。



大切なこと
 学習状況を把握、判断し、個に応じた支援をする。

2 自己評価、相互評価で振り返りをさせましょう。

例：体育（小学校第6学年）
 1 単元名 ネット型(ソフトバレーボール)
 2 ねらい 自分のチームの力や特徴に応じた攻め方を知り、作戦を立てることができる。

言葉、図、式などを使ってどのように考えを説明しているか、必ず全員の取組やノートを確認する。

④みんなが楽しめるようなルールを考えた。	<input type="checkbox"/>
⑤チーム力や特徴にあった作戦を立てた。(今日のねらい)	<input checked="" type="checkbox"/>
⑥味方が受け取りやすいようなレシーブやパスができた。	<input checked="" type="checkbox"/>
⑦ボールをレシーブしやすいところにすばやく動くことができた。	<input checked="" type="checkbox"/>

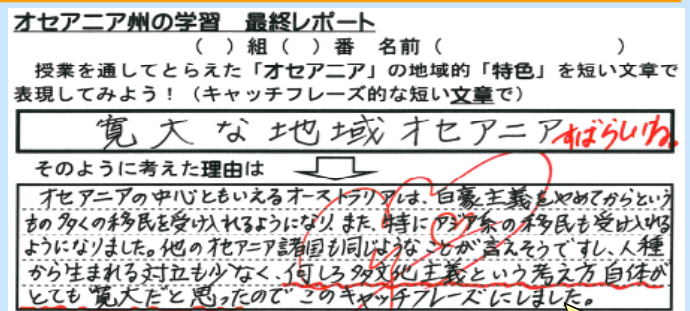
6 今日の学習で気付いたこと・友達からのアドバイス。
 ボールをさわろうとすると、サインをぬすれちゃうので、早めに声を出すといいと思った。>サインはぬすらぬ。

大切なこと
 振り返りから定着の様子を見取り、指導の改善に生かす。

学習カードで自己評価や相互評価をさせることにより、本時のねらいの達成度などを見取り、次の指導に生かすための参考にする。なお、活動量を確保するために、短時間で記入できるような指導や工夫が必要である。

3 ねらいの達成を見取ることができるワークシートであるか、見直しましょう。

例：社会（中学校地理的分野）
 1 単元名 世界の諸地域（オセアニア州）
 2 ねらい 学習課題について、各種資料を活用し、多面的、多角的に考察して、自分なりの考えをまとめることができる。



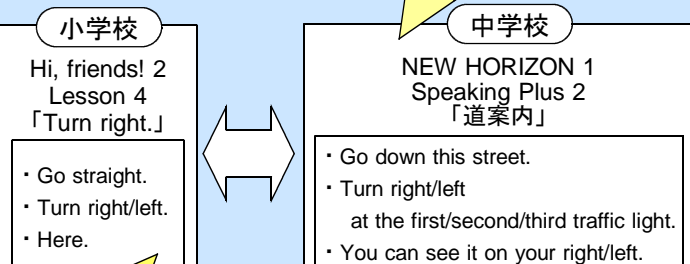
大切なこと
 ねらいに迫る思考過程を見取る方法を工夫する。

ねらいに迫るため、多面的、多角的な考えであるかを見取ることができるワークシートを作成する。

4 学習の積み重ねを踏まえて、ねらいに沿った見取りをしましょう。

例：外国語（中学校第1学年）
 1 単元名 道案内～道順をたずねる、教える～
 2 ねらい 道案内特有の表現を用いて、目的地までの道順をたずねたり教えたりすることができる。

小学校での既習表現を踏まえて、ねらいの達成状況を見取る。



大切なこと
 9年間の学びの連続性や系統性を踏まえる。

中学校での学習への系統性を把握して指導する。